

施設管理に問題あり

8年間清掃せず



にしむら まさのぶ 西村 将伸 議員

答 森田 まちづくり課長

水道施設の維持管理は黒潮町官工事組合に委託して機器の保守点検や水質検査をしている。

配水タンクの清掃頻度は条例に定められておらず、あくまで目視による確認と水質検査で清掃時期を判断しているため平成18年以降清掃していません。

揚水に係る無駄な電気料の指摘があるが、適正な貯水量を計算したことはない。

問 安全で良質な水を供給するには施設管理が重要であるが、佐賀地区にある配水タンクは平成18年度以降、一度も清掃がされていない。その理由は何か。

また、配水タンクの貯水量は住民の水道使用量に応じて地下水をくみ上げる方法にすれば、動力電気の大きな節約になる。

適正な貯水量を計算し、清掃方法と運用を見直す必要があるのではないか。

防災対策

砂災害危険区域数は 町内 537カ所

問 今夏の豪雨で、中山間地域の急傾斜や山裾にある住居

の危険性を改めて知ることになった。現在、町内で指定している土砂災害危険箇所の数と今後の対策は。

答 松本 情報防災課長

現在、土砂災害危険箇所は537カ所。内訳は土石流危険箇所が196カ所（警戒区域10箇所）、急傾斜地崩壊危険箇所が341カ所（警戒区域15箇所）となっている。整備には相当の期間を要するため、今後は各集落で地域の実情を知る住民が主体となった防災計画策定を進める。

若者定住

幡多地域に 専門学校の設置 幡多広域の 幹事会の参考に

問 若者定住を目的に、幡多の市町村で郡下にある空き教室等を利用した専門学校の設置は図れないか。

答 武政 総務課長

幡多広域の事務組合に総務

行政改革

住民参加が必要 不可欠では 協働による 集落維持が重要

担当課長でつくる企画部幹事会があり、今後の参考にします。

でネットワークの形成を図ることを求めているが、町の考えは。

答 松田 副町長

今後は事務事業の見直しや危機管理の確立、情報提供の充実、指摘される地域協働による集落の維持等が重要と考えている。

問 行政改革の潮流は、住民を協働者として捉え、連携し



佐賀地区の水道施設